大浦天主堂
フランス人宣教師が描いたイメージ図をもとに天草出身の小山秀之進が施工し、1865年に建てられた。開国後、西洋人の指導で建設された初期の教会堂の代表例

密かな信仰の証……⑫ 大浦天主堂（長崎市）

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

「信徒発見」の舞台となった教会堂

日本での再宣教を託されたパリ外国宣教会は、1863年、長崎の外国人居留地に大浦天主堂の建設を開始。宣教師たちは長崎にキリシタンが残っているかもしれないと微かな望みを抱いていました。

天主堂が完成した1865年、浦上村の潜伏キリシタン十数名が訪れ、宣教師に自分たちがキリシタンであることを告白しました。この「信徒発見」をきっかけに多くの潜伏キリシタンが信仰を表明すると、再び弾圧が強化されましたが、弾圧に対する西洋諸国の強い抗議によって、1873年、明治政府は禁教の高札を撤廃し、キリスト教は解禁されました。

大浦天主堂は、潜伏キリシタンが二世紀ぶりに宣教師と出会い、その後カトリックへ復帰する者が現れるなど、新たな信仰の局面を迎えるきっかけとなった教会堂です。

「信徒発見」のマリア像
大浦天主堂を訪れ、キリシタンであることを告白した潜伏キリシタンたちに宣教師が見せたマリア像。今も中央祭壇に向かって右の脇祭壇に安置されている

問合せ　県の世界遺産登録推進課　☎095-894-3171

長崎から世界遺産を　検索

県では、皆さんからの寄附をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業へ助成します。ご協力をお願いします。

長崎県　構成資産へ寄附　検索

［発行］長崎県広報課　〒850-8570（住所不要）
TEL.095-824-1111　FAX.095-828-7665

知事の会見や県政番組は　よかテレ　検索　よかテレ nagasaki yokayoka.tv